

磐代乃岸之松枝將結人者反而復將見鴨イハシロノキナ マツガエムスビテムヒトハ カヘリテ マツケムカモ、
 磐代乃野中爾立有結松情毛不解古所念イハシロノアオカニ タテルムスビマツコノロモ トケズムカシモホユ、

〔書言字考節用集六生植〕武隈松タケクマノマツ在奥州名取郡タケクマノマツ 在奥州名取郡、

〔後撰和歌集十七雜歌〕みちのくにかみにまかりくだれりけるに、たけくまの松のかれて侍けるを

みて、小松をうへつかせはべりて、任はて、のち又おなじくに、まかりなりて、かのさきの
 任にうへし松を見侍て、
 藤原もとよしの朝臣

うへし時契りやしけむたけくまの松をふた、びあひみつる哉

〔書言字考節用集六生植〕阿古耶松アコヤノマツ在羽州最上阿古耶松 在羽州最上、

〔古事談二節〕實方經廻奥州之間、爲見歌枕、每日出行、或日アコヤノ松ミニトテ、欲出之處、國人申云、

アコヤノ松ト申所コソ、國中ニ候ハテト申之時、老翁一人進出申云、君ハイヅベキ月ノイデヤラ
 ヌカナ此歌ミチノクノアコト申古歌ヲ思召テ、被仰下候歟、然バ件歌ハ、出羽陸奥未境之時、所讀
 之歌也、被堺兩國之後者、件松出羽國方ニ罷成候也ト申ケリ、

〔東遊記四〕阿古屋松阿古屋松略

實方中將の尋侘給ひけるといふ阿古屋の松は、昔は奥州と聞しに今は出羽の内に屬して、山形
 の城下より坤の方とも覺えて、二里ばかりを隔てたり、其地を千歳山と云、其松今も昔の色見え
 て、常盤の陰榮え茂りて、誠に目出度木にてぞ有ける、

〔播磨名所巡覽圖會三加古郡〕尾上松四丁四方の松林にて、長田の莊、住吉明神祠大原大明神同林中、

例祭八
 月卅日、

社記云、播州尾上は、神功皇后三韓征伐御歸朝の後、住吉の御神と同村の鎮座也、高砂と號く所、東
 は池田より北は此所に續き、人家多くて、船の往來も程近く、漁獵のたよりもよろしきに、世變年